

後継者不足、次々と現れる輸入品、激変する物流…農業を取り巻く環境はいつそう厳しくなっている。中山間地と深刻な高齢化が立ちはだかる竹田市だが、ここにも親たちが楽いてきた味と生まれ育った大地を守ろうと奮闘する若い生産者たちがいる。彼らの語る言葉は高い品質と夢を求めるエネルギーにあふれていた。



俺が社長で子どもが社員

耕作放棄地引き受ける

三浦 私は記者歴19年目、42歳で現在の中津社は2年目。農業関係の取材といえば、大分市の事業で野津原町の農家と都市の住民をつなぐ交流事業を1年間ほど追いかけたことがあります。今日はざっくばらんに話していきたいと思います。

野尻 萩町で米を作っています。面積は45%で2人を雇用。今日は寝不足ですが頑張ります。

植木 くじゅう高原で繁殖経営をしていて、現在、母牛を100頭、子牛を常時60頭管理しています。出席者の中では自分が一番若いので、今日は勉強させてもらいたい。

佐藤 萩町でトマトを作っています。3年くらい大阪や神戸にいて、後を継こうと帰ってきました。10年くらい親父と一緒に作って、また10年ほど自分で水やりから管理して、トータル20年目くらいでしょうか。

小野 出身は直入町で農政課は3年目。皆さんの話を聞きながら学ばせてもらいたいと思います。

石井 2000年にイオン九州に入り、約10年青果を担当。現在は大分県と宮崎県にある元ジャスコの店舗で食品全体の指導監査をしています。家は宮崎県日向市で、今日は僕だけが部外者。客観的な立場で話ができればと思っています。

三浦 皆さんが力を入れていることや、最近仲間と取り組んでいることがあれば紹介してください。野尻さんは耕作放棄地になるような田んぼを引き受けていると聞きました。

野尻 父がしていて、自分が始めて10年くらいでしょうか。だんだん面積が増えてきて現在の45%になりました。さらに増えるのでは

ないかと思っています。

いろいろな知恵教わる

三浦 企業体の形になっているそうですね。

野尻 法人になって3年目。面積が大きくなり、雇用面も考え法人にしました。

三浦 植木さんもお父さんの代からですが、植木さんの代になって変化はありますか。

植木 牛は数を増やすと品質を保つのが難しい。一時160頭まで増やしたことがありました。体制の脆弱(せいじゃく)さを感じました。いいものを肥育農家に届けるのが目標です。

三浦 結成して40年になるという、若手の和牛生産者の集まり「はなぐり会」の結び付きは。

植木 牛はつくる過程が難しいので、みんなからいろいろな知恵を教えてもらえるのが楽しいです。

冬の方が断然おいしい

三浦 ところで今日、佐藤さんがトマトのジュースを持ってきてくれました。

佐藤 これは5年前から作っています。トマト作りは6月の終わりから11月くらいまでなんですが、10年ほど前に暖房設備のある対候ハウスを導入して2月まで作れるようにしました。そうしたら1、2月のトマトが糖度が高くおいしいのでジュースにしてみました。夏場では出ない味。何も加えていないのでトマトそのものの味がします。

三浦 きっかけはあったんですね。

佐藤 竹田市でパッケージや加工の事業があり、やってみないかと声を掛けられました。1

本700円で、飲んだ人はおいしいと言ってくれるんですが、宣伝するとすぐになくなって。調整が難しく、なかなかもうかりませんね。

石井 冬のトマトがおいしいんですか。

佐藤 色づくのに1週間くらいかかりますが、夏は早く収穫するので、冬の方が熟して断然おいしい。萩は冬が寒いので燃料代が高くて大変だけど、夏を考えると作りたいですね。

三浦 お父さんの代から作っていますが、皆さん自身のこだわりもあるようです。

野尻 萩の田んぼは時間給水なので、この時期まだ田植えが終わっていない。水路は二、三十カ所に分かれていて、時間給水で1時間に3、4本開けるんです。自分の時間がきたら前の人のを閉めて自分のを開けて。夜中の開門もあり、お年寄りには大変です。

三浦 耕作放棄地を見るとどんな思いですか。

野尻 頼まれたものはほとんど断っています。機械が入らないような場所を断ったことはありますが。

三浦 植木さんのこだわりは。

植木 仕事を始めて8年目で自分の代にシフトしようとしている時期。高品質のものを生産工程を確立して、自分の作ったものでどんなビジネスチャンスを得られるか考えたいです。牛は肥育農家にわたり、精肉店でブロック加工して店頭と並ぶ。流通経路が長いので、きちんとした品質のものをつくろうと思っています。田んぼの話は久住でも頭が痛い問題で、牛を飼っていても頼まれた米作りとわら集めが忙しくなり、どっちつかずになっている人っている。やりたいことと、やらなくてはならないことがある厳しい状況を、地域の問題として話し合っています。

大変な夜間の時間給水

三浦 本業があるのに、他のことにエネルギーを割くなくてはならないのは難しいですね。佐藤さんは「桃太郎」の品種にこだわっている。

佐藤 味がいいんです。栽培のしやすさも大事ですが、やっぱりおいしいものを作りたい。イオンの「赤探りトマト」っていいと思うんですが、品種の限定があって僕は作っていない。あれを桃太郎でやってほしいな。

三浦 おいしいものを作りたいというのは本音だと思いますが、もうけたいというのもありますよね。どう折り合いをつけていますか。

佐藤 うちは暖房施設を持っていたり周りが作れない冬においしいものができるから、そこで利益が取れたらいいかなと。夏はみんなが作るから、大量に作るか、直接売り場に並べてくれるところと取引するしかない。流通の中間マージンがなくなれば生産者はもっともうかるのに。4割が手数料で取られる。20年目なので転換期かな。法人にするとうまくなりますか。

野尻 法人税は高いですよ。補助金があるととも限りませんし。経費面や取引先との信頼につながるといったメリットはありますが。

小野 経理を見直すともうけが出るとも聞きます。個人だと生活費とのどんぶり勘定になりがちです。

野尻 会社は給料制ですから。

三浦 いろいろと課題がありますね。

野尻 大蘇ダム(熊本県産山村)の水がたまるとだいぶ業になるんですが、夜中の時間給水は精神的にも疲れる。5月1日から8月ころまで続くので。

石井 どんなダムなんですか。



若手リーダー
農業生産法人「田んぼ屋のしり」専務
野尻成尚 さん



若手リーダー
畜産経営(植木牧場)
植木俊輔 さん

野尻 漏水で有名になってしまっって。

地域の資源で循環型に

三浦 飼料の値上がり話も聞きましたか。

植木 素牛価格は宮崎県の口蹄疫問題と東日本大震災を受けて高水準で推移しているんですが、全農家が輸入飼料を買っているんで、牛が高く売れても収入はあまり増えない。

野尻 米でやってみない? 飼料米。

植木 地域の資源で飼料を作る循環型農業みたいな形ができたら、自立した産地づくりにもつながりますね。焼酎かすを飼料に使う取り組みを、宮崎県の焼酎工場に行きました。

野尻 うちで作る飼料米は熊本県の「セブンフーズ」(養豚)に出しています。

石井 サツマイモを与えた「おいもブタ」といった銘柄がありますが、お米は初めて聞きます。肉の甘みが増しそうなイメージ。

三浦 可能性がありそうです。ところで皆さんは結婚されていますが、お嫁さん不足も深刻とか。

植木 出会いの少ない地域なので、「もてもてナインティナイン」(男女の出会いをテーマにしたテレビ番組)に出たいと、行政に掛け合いました。後継者不足は野焼きなどにも影響が出てきます。

石井 街コン(出会いや地域活性化をテーマにした大規模コンパ)とかありますよね。街がお見合いの舞台。観光客にも期待して企画しては。

三浦 最近は油も高いですよな。

佐藤 冬のハウスの燃料費は大変ですが、「佐藤さんのトマトはおいしい!」と言われるとうれしくて、つい作り続けて燃料を使ってしまう(笑)。課題はトマトがなくなる3月から6月くらいまでの間に何か作る物がないかなと。

小野 直入で作っているホワイトアスパラはどうですか。生産農家が減っているの作ってみては。

石井 グリーンより1.5倍くらいの価格ですよ。

佐藤 勉強してみます。



アドバイザー
イオン九州SV部大分・宮崎事業部食品担当
石井大作 さん

新規就農者増やしたい

三浦 これまでの話の感想を聞かせてください。

小野 6次産業化やグリーンツーリズムの担当なので、生産者と体験農園などの取り組みをつなぐことができるといいです。農業に触れる機会を提供し、新規就農者を増やしていきたいです。

小野 新規就農者の雇用型研修「とまと学校」(萩町)で学んだ人たちは、施設が整備されているからできている面があります。

三浦 牛はハードルが高いですよな。

植木 長年のいろいろな失敗を経験に変えてものづくりに生かしていく作業ですから、ゼロから始める人には大変だと思います。

野尻 米粉のパンを作ろうかと思っています。

小野 市としても支援できると思います。

三浦 ぜひ検討を。さて、高齢化が進んで皆さんの世代への負担が大きくなっていると思います。若手の役割は。

佐藤 やっぱ地域を盛り上げていかないとね。面白いところには若い人も残ろうと思うだろうし。

植木 地域に獅子舞があるんですが、担う人

数は減っているのに今まで通りの形の獅子舞を続けようと思死です。野焼きもボランティアを集めている地域があるが、久住は地元の人が軽トラで走り回ってやっている。高原もトラクターを走らせて草を刈らないと美しい景観が守れない。やればやるほどもうからないのが悲しいところですか。

観光牧場やってみたい

三浦 受け継いできたものをつないでいくには、若い人や仲間を増やすことが大切。はなぐり会は40年の歴史があって人数も減らず、すごいですね。

植木 作業の合間に飲み会や視察をしたりと、先輩たちが堅苦しくなく横のつながりをつくってきたのが良かったんだと思います。

三浦 野尻さんのところのような業態にするのは、他でもできそうですか。

野尻 よほど広く作らないと…そうすると機械を買わないといけなくなる。竹田で米一本で稼ぐのは難しいですね。

小野 竹田は谷が多いですすからな。

三浦 皆さんは子どもに継いでほしいと思っていますか。佐藤さんは継ぐ気がなかったそうですが。

佐藤 僕の農業は自分のペースで時間を使える。子どもがそれを魅力と思えば継ぐでしょう。継ぎたいと言われても一緒に作らないかな。必要なことは自分で吸収していけた。

石井 独り立ちにはどれくらい必要ですか。3年?

佐藤 3年あっても3回しか作れない。いろいろな気候を体験することはできません。

野尻 子どもとまだ将来の話はしませんか、みんながうちに就職してくれたらいいな。

佐藤 それいい。俺が社長で子どもが社員(笑)。

植木 愛知県の大学に進学して就職しましたが、彼女と観光牧場とかを見て、こういう仕事もいいなと帰ってきました。子どもが牛舎に来て、草をあげているのを見るとうれしいです。

食べ物は常連ができる

三浦 夢があれば聞かせてください。

佐藤 もう少し規模を大きくしたい。それから1年間通じて作物を作りたい。株式会社をつくって子どもを雇用できたらいいですね。

植木 馬に乗って牧場を見て回るようなロマンあふれる牛飼いをしたい。ものづくりを一生懸命して、牛の核心のようなものをつかみたいですね。

野尻 規模を拡大していくので機械と雇用の準備が必要になるでしょう。市とも協力していきたい。

三浦 行政としてできることは。

小野 やる気のある人に支援を集中していくことになると思う。ぜひ要望を寄せてください。

石井 これまで多くの生産者と話してきましたが、皆さんのような若い人と話すことはなかなかできないと思います。技術の継承、おいしいものを作るとかブランド化といった考え方がこの世代にも浸透していると分かり、うれしかったです。食べ物は一度おいしいと感じたら買い続ける常連ができる。インターネットがどれだけ進んでも食べ物は必ず口から入る。こだわっている商品をぜひ作り続けてほしいです。

はじめた人がある。

つづける人がある。

じぶんは、

こうしてふるが、ていこんだ。

ここちよい世の中をめざした、JTの取り組み

■あなたが気づけばマナーは変わる

たばこを吸われる方の喫煙マナー向上のために、「あなたが気づけばマナーは変わる。」というメッセージとともに、ポスター、喫煙所のステッカー等による呼びかけを行っています。

■ひろえば街が好きになる運動

「ひろう」という体験を通じ、「すてない」気持ちを育てたい。そんな願いから生まれたこの運動は、どなたでも参加できる清掃活動で、全国各地でこれまでに延べ120万人以上の方々にご参加いただいています。

■分煙コンサルティング

公共施設や商業施設、オフィス等、各施設の特徴や利用される方々のニーズに応じた「分煙コンサルティング」を実施。分煙方法についての知見提供・提案・アドバイスをしています。

JT

ひとのときを、想う。

JTでは、分煙方法について知見提供・提案・アドバイスを無料にて実施しています。例えば…

☐ オフィスに喫煙室を造りたいけど、どうすれば…

☐ 飲食店で喫煙席と禁煙席を分ける際のポイントは…

☐ 喫煙室からのニオイの漏れを改善したいのだけど…

☐ 床にたばこの焦げ跡の付かない対策は…

☐ 分煙機について知りたい。

☐ 分煙の事例を紹介して欲しい。

☐ 喫煙マナーを啓発できるポスターが欲しい。

吸う人も

吸わない人も

ここちよい世の中へ。

お問い合わせ

日本たばこ産業株式会社 大分営業所 社会環境推進担当
大分市新員1-10 TEL.097-552-7171
営業時間/平日9:00~17:40